

# 「おおきいスイカをもってたべるぼく」

西崎 亮太 (にしぎき りょうた) 5歳

西方寺こども会  
(兵庫教区)

最初に描いたのがスイカですが、その輪郭では、迷いもなくかぶりついた跡を二つ描いています。りょうたさんの目には、真っ白な画用紙に、すでにこのスイカが見えていたのでしょうか。画面の上に少しスペースを残しているのも、そこに自分の姿も見えていたからだと思います。大きな口でかぶりついた感触や、口の中に広がる甘いスイカの味を、描きながら再び楽しんでるのでしよう。

画面に大きく描かれたスイカ、そしてかぶりついた大きな口、両手を広げてしっかりと持つ腕と指先のひとつひとつまで丁寧に表現しています。何かテーマを与えられて描いたのではなく、目の前にあった大きなスイカに触発されて「僕、スイカを描く！」と自分で決めて描きだしました。しかし、目の前のスイカではなく、以前にスイカを大きく切り分けてもらって食べた経験を思い出しながら描いたそうです。

## ●表紙のことば●



おお はし いさお  
**大橋 功**

岡山大学学術研究院  
教育学域